



土岐市教育研究所	0572-54-1111 (内374)
TEL FAX	0572-55-6310
メールアドレス	kyoiku@city.toki.lg.jp
所報	No. 589
発行責任者	所長 板倉 義樹
発行日	令和8年 9月 16日
題字	長谷川 広和 教育長



『みてみて！
みんなでつくったよ』

撮影

駄知こども園

大東 美月 先生

「土岐に行くのがステータス！」

土岐市教育研究所長 板倉 義樹

この春、昨年度まで中津川市の小学校に勤務されていた先生のお話を伺う機会がありました。最初の挨拶の中で「中津川市の小学生にとっては、土岐に行くのがステータスになっています。」とおっしゃいました。詳しくお聞きすると、自分たちが電車で乗り、バスを乗り継いで自分たちが行きたい場所に行くことの目的地に土岐市になっているとのことでした。

学校訪問の際、初任者の先生と懇談する機会があります。ある初任者の先生は管外からお越しいただいており、現在土岐市に住まいを借りてご勤務いただいています。「土岐市はどうですか？」とお聞きすると、「住んでみると意外と住みやすいですね。近くにいろんなお店もあるし、電車で名古屋も行けるし、便利ですね。」とおっしゃっていました。

7月に、岐阜市内の学校にお勤めの校長先生とお話をする機会がありました。「東濃の方へお出かけになることありますか？」とお聞きすると、「土岐は時々行きますよ。アウトレットとか。」とおっしゃいました。それぞれの目的や趣味等に応じて東濃各市を訪れる方が多くあると思いますが、「土岐市」を訪れていただけることはうれしいことです。

こうしてみると、高速道路や鉄道が通り、複数の大型商業施設や日帰り温泉施設、映画館などがある「現在の土岐市」は、多くの人にとって「目的地」「訪れたい場所」になっています。少し前までの市内の学校では、「週末に名古屋へ行ってきた。」「〇〇市のショッピングモールに行ってきた。」という子どもたちの会話をよく聞きましたが、現在の子どもの行動範囲や土岐市のイメージはどうなのでしょう？

「現在の土岐市の魅力」がある一方、「歴史や伝統のある土岐市の魅力」があります。「陶磁器生産量日本一の土岐市」に関連することはもちろん、市内各地域に自然、歴史、伝統文化があります。

第3次土岐市教育振興基本計画には、「地域への愛着と誇りを育むふるさと教育の推進」を位置付けています。土岐市への愛着と誇りを育むため、各学校において、地域の教育資源を活用しながら、自然や歴史、文化や産業などを学習しているところです。子どもたちが「土岐市の歴史や伝統、産業の魅力」を学び、「新しい魅力がある現在土岐市」の暮らしの中で育んだ夢を「未来の土岐市」につなぎ、自信をもって「ふるさと土岐市」のことを語れるようになってほしいと思います。

子ども達とともに成長する

土岐市教育委員 林 勇気

「教育委員会」と聞いて私が持っていたイメージは「教師経験者が教育について考える場所」でした。そんな場所に自分が入るなんて思ってもみませんでした。

「教育委員になってくれないか」

そう言われた時に『自分には無理だ』というのが率直な思いでした。それでも地元の市議会議員さん、連合町内会長さん、公民館長さんに説得され何をするのかもイメージできないまま引き受けたのを覚えています。

教育委員になって定例会、研究会、学校訪問と参加させていただく中で、最初は自分の場違い感を感じていました。しかし教育長を始めとする教育委員会の方々や先生方が土岐市の教育を真剣に考え良くしていこうとする姿を目の当たりにして「自分にできることは何だろうか」と思うようになりました。

私は駄知町で「天地飛炎太鼓」という和太鼓チームで子ども達に和太鼓の指導をしています。幼稚園の年長から中学生の子まで20名程所属しています。個性的な子が多く、好奇心旺盛で何でもやりたがる子、集中力が続かない子、中にはできないことに対して諦めてしまう子もいます。そんな子ども達を教える中で大切にしていることは「チャレンジする」ということです。新しい曲を覚えるのはもちろん、うまくできないことに関してはどうやったら上手にできるようになるのか、子ども達と一緒に考えます。できなかったことができるようになる喜びは、本人はもちろん、指導する側もとても大きいです。

太鼓を通して子ども達に関わっていると子どもの成長というのが本当によくわかります。技術的な部分はもちろんですが、低学年の頃はすぐに「疲れた」「できない、もうやりたくない」と言って練習の和を乱していた子が、高学年になり中学生になるにつれて自分から練習の準備

をしてくれたり、下の子をまとめたり、面倒を見てくれる姿を見るようになります。そんな姿を見るととても感慨深く、嬉しい気持ちになります。

年に一度、駄知小学校でお昼休みに時間をいただいて子ども達が演奏する機会があります。この時は司会進行も完全に子ども達に任せます。演奏が終わり、友達や先生方から大きな拍手をもらった時の子ども達の表情は、それまでに見たことがないほどの笑顔になります。

きっと、この日のために、失敗しても諦めず、何度もチャレンジしてきたからこそ味わえる喜びなのでしょう。

年代の違う子が集まるコミュニティの中で「チャレンジする姿勢」を上級生が下級生に、そして子ども達全員が大人達に教えてくれます。大人が子どもを育てるのと同時に大人もまた子どもに育てられているのだと最近よく思います。

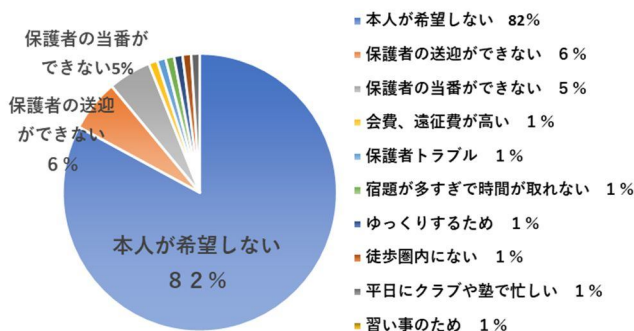
ふだんの学校生活を直接見ることはできませんが、教育委員として学校訪問をさせていただき授業風景を拝見すると、先生方が一人ひとりの子どもをよく見ながら、さまざまな工夫をされていることがよく分かります。そうした先生方の日々の努力や、子ども達への温かい接し方があるからこそ、子ども達が素直に成長しているのだと思います。先生方には、いつも本当にありがとうございますとお伝えしたいです。

「子どもは地域で育てるもの」とよく言われます。しかし、私は、地域もまた子ども達によって育てられているのではないかと思います。子ども、保護者、学校、そして地域の方々。それぞれが支え合い協力することで、子ども達にとってより良い環境が生まれるのではないのでしょうか。

教育委員になった当初は、「自分には無理だ」と思っていた私ですが、子ども達と関わる中で、チャレンジすることの大切さを改めて教えてもらいました。これからも教育委員として、子ども達、保護者、学校、地域の皆さんをつなぐ懸け橋になれるよう、そして自分自身もチャレンジし、成長していきたいと思っています。

夏の甲子園やインターハイは、高校スポーツの夏の風物詩です。中学校でいえば、中学３年生最後の中体連大会です。部活動の引退は、受験への切り替えの大切な節目でもありました。コロナ禍後の令和の中学校は、少し様相が変わってきています。令和８年度の中体連夏季大会への参加者数は東濃地区全体で２５．９％（土岐市２８．８％）という実態が明らかになりました。土岐市の部活動加入率は８５％です。土岐市教育委員会が行った調査結果によると、土日に地域クラブや地域活動に取り組む生徒は６２％、学習に取り組む生徒は１０％、特に活動していない生徒は２８％となっています。学習、スポーツ、文化芸術活動に取り組みたくない生徒がかなりの割合でいることがわかりました。現在の状況が、生徒にとって、将来にわたってスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保し、充実した活動の環境が整えられているとは言えない状況です。

資料1 土日に活動しない最たる理由 (%)



土岐市中学生徒の各種クラブ・活動への参加状況に係る保護者アンケートの結果 R8.7 土岐市教育委員会

資料 2 地域や行政に期待すること

- ★部活の加入が任意になったことで、子どもの体力低下が自分の子供を含め気になります。
- ★学校での部活や運動の時間をもっと作るべきだと思います。3時間前に帰ってきて、遊びに出かけたり、ゲームをしたり、体力と時間を持て余しています。自主的に勉強したり運動したりは、難しいです。
- ★学校の部活が週に30分だけなのは意味がない。学校と地域がつながるようもっと考えてほしい。
- ★子どもたちの体力格差が広がっていることを心配しています。運動習慣は、生涯にわたる健康やメンタルヘルスにもかかわる大切な基盤だと思います。運動の得意・不得意・好き・嫌い、家庭の状況に左右されず、誰もが気軽に無理なく体を動かせる機会を作っていただきたい。

土岐市中学生徒の各種クラブ・活動への参加状況に係る保護者アンケートの結果 R8.7 土岐市教育委員会

成10年過ぎ頃から、今で言う「保護者クラブ」(顧問ではなく、保護者が運営するクラブ活動)という形で、土日の活動を中心に部活動のクラブ化が進みました。そして、平成の終わりとともに教員の負担軽減と少子化への対応を目的に中学校での部活動地域移行を進めることになったのです。平成の時代の部活動は全員加入が当たり前でしたが、令和4年12月にスポーツ庁と文化庁から出された総合的なガイドラインに基づき、土岐市の部活動も任意加入になりました。あれからわずか4年で4人に1人しか参加しない中体連最後の大会になってしまったのです。PTA本部役員会で学校の実態を話すと、「わが子は、3年間で一度も試合がないまま終わってしまった。」と、一人の方が残念そうに呟きました。資料1、資料2に示すように、土日に活動しない理由「本人が希望しない」、地域や行政に期待すること「部活の加入が任意になったことで、子どもの体力低下が気になります」などの調査結果やご意見に対して、学校は真剣に受け止めなければいけません。

こども達の体力の低下のきっかけは、コロナ禍であったかもしれませんが、部活動の沈滞化も要因の一つです。部活動地域展開という国が目指すシステムがすぐに土岐市で完了することはありません。次期指導要領の方向性は、部活動の教育的意義を認めつつ、地域展開を進めるというものです。将来に繋げていくために、今できる最善の手を打っていく必要があります。

夏休み中に校区内の公園などで中学生をあまり見かけません。暑さも理由ですが、近くに友達がいなかったり、ボールを使って遊べないなど、中学生が自由に遊んだり運動したりする場所はありません。安全安心が再優先される今のご時世で、不審者などの心配が低いのは近所の公園ではなく、学校の敷地です。今までは、顧問による指導や管理を前提とする部活動を想定していました。学習指導要領では、生徒の自主的、自発的な参加により行われるものが部活動とされています。中学生にとって大切な成長の場である部活動の時間は、三つの間(時間・空間・仲間)を兼ね備えています。学校施設は、近くに大人がいて安全で、たくさんの仲間がいます。これまでの顧問による指導・管理が前提の部活動を見直し、生徒たちで考えて行う部活動の時間を私たち教職員が生徒たちに保証するという発想に変えていくことが大切だと思っています。

一体どうしてこんなに中学生は、部活動に消極的になってしまったのでしょうか。東濃地区は平



『ふるさと』とつながる時間を

土岐津中学校

土岐津町には、たくさんの「祭り」があります。地区ごとに行われる地元密着の祭り事は、一年を通して行われます。そんな中でも、町をあげてのお祭りが、「土岐津町夏まつり」。少し振り返ると、始まったのは20年ほど前、町内に夏祭りが続かなくなる地区が出てきた時のこと。“ならば土岐津町のまつりをやろう”“土岐津の子ら、みんなが集まれる場所をつくろう”という地域の声を受け、青少年育成会の皆様が立ち上げたのが、その始まりです。コロナ下での中断もありましたが、3年前に自治会主体の運営となって復活。プログラムや出店のスタイルは変わりこそすれ、土岐津の夏に灯る明かりと集う人、流れる「土岐音頭」は、今も昔も変わりません。

こんな町にある土岐津中学校では、『ふるさと』を題材にした授業が一年を通して行われます。

着付け教室

地元にある和装教育連合会の岐阜支部の方々に講師になっていただき、着付け教室を開きました。着ることだけにとどまらず、着物の作り、成り立ち、礼儀、所作など、文化として着物を広く教えていただきました。ワークスペースに畳のシートを広げ、色とりどり、様々な柄の着物で身を包んだ生徒たちの姿に、日本の文化と夏の訪れを感じたり、夏祭りを意識できたりする時間になりました。



盆踊り講座

民謡団体「豊岐結会」の土岐津支部の方々に講師にお招きし、体育館で行いました。一つ一つの振り付けの手ほどきを受けた後、大きな輪になって、「土岐音頭」「中馬馬子唄」「ダンシングヒーロー」を楽しく踊りました。昔は地区ごとに行われていた盆踊りの継承ですが、昨今それが難しくなっている地区もあると聞きます。そのような時だからこそ、学校で行う『ふるさと』

学習でできることがあると考えています。



「夏まつり」に関わっては、当日の運営にも、毎年たくさんの生徒がボランティアとして参加します。今年も60名以上が参加し、各ブースの担当やごみの収集など様々な役割で活躍の場をいただきました。司会進行を打診した生徒は言いました。

「いつか司会をやりたいと思っていました！」

お客さんとして参加していた子が、祭りをつくる先輩の姿に憧れ、自分がつくる人になっていく。『ふるさと』がつくられていく瞬間を感じました。

俳句教室

土岐市桔梗句会の方々に講師にお招きし、俳句づくりに3年生が取り組みました。季語は夏。日常での自分の気づきや東京研修での経験などを、それぞれに17文字にのせて表現しました。

* * * * *

8月8日土曜日、縁起がよさそうなこの日に、今年も「夏まつり」が開かれました。当日は、盆踊りが始まる直前に突然どしゃぶりの雨。輪になって踊ることはできませんでしたが、夜店や催しを楽しむ中学生の姿をたくさん見ることができました。生徒たちが、この夜見た風景で一句読んでいたならば、『ふるさと』学習の冥利に尽きます。

いつか大人になった土岐津の子たちが、土岐津の町に暮らし、文化をつないでほしい。土岐津を離れた子たちには、それぞれに、その土地の景色、食べ物、祭りを楽しみながら暮らしてほしい。そしてまたいつか、そんな仲間たちが、ここで懐かしく集うことを願ってやみません。

科学作品・発明くふう作品・社会科課題追究学習作品・読書感想文・食の課題追究「オリジナル給食料理」の取組を振り返って



9月5日（土）・6日（日）にセラトピア土岐大ホールにて科学作品・発明くふう・社会科課題追究学習・食の課題追究「オリジナル給食料理」の作品展が開催され、2日間で1,000人を超える来場者がありました。

家族で来場する人が多く、また、時間をかけてじっくり作品を見ていく人が多かった印象でした。



また、6日（日）午後、同じくセラトピア土岐で読書感想文も含めた入賞者の表彰式が行われました。



夏休みの過ごし方、課題の出し方が年々変わってきて、全体の取組人数は減少傾向にあります。そんな中での審査でしたが、本当に力作ぞろいでした。賞に入る、入らないに関わらず、どれも、自分の疑問や願い、思いに向き合い、自分の目で確かめたり試行錯誤したりしながら創られた作品ばかりです。この取り組んだ時間が、きっと一人一人の様々な興味関心を広げ、探究する力・表現する力、そして粘り強さを育てたことでしょう。

《審査講評より抜粋・要約》

●科学作品

どの作品からも、研究するものに強い興味をもち、長期間にわたって観察や実験を続けてきた様子が伝わってきた。観察や実験を何度も行い、集めたデータをもとに答えを導き出そうとする科学的な研究となっていた。今後に向けて、研究の「動機」と「まとめ」を、しっかりと結び付けることが大事である。

●発明くふう

くふうの部では、家族など身近な人の暮らしを、より便利に、楽しく、健康的にしたいという思いから生まれた作品が数多く見られた。絵画の部では、子どもたちがそれぞれ未来の世界に夢を馳せ、その願いを一枚の絵にぎゅっと詰め込まれており、その強い思いが、細部までこだわった描写や鮮やかな色遣いに生き生きと表れていた。

●社会科課題追究学習作品

よさを大きく2点。一つ目は自分で実際に見たり、聞いたり、体験したりして、確かめていること。時間をかけて、粘り強く取り組んだことがよく伝わってきた。二つ目は、調べて分かったことを整理し、そこから自分の考えを深めていること。今後に向けて、「課題」を明確にして追究していくことが大事である。

●読書感想文

AIで文章が作れる時代だからこそ、「人間ならではの言葉の力（言語能力）」を育てることが必要である。それは「言葉の意味を理解すること」「他の人（他者）の経験・感情を理解すること」「自らの意思や考えを作り、表現すること」の3つ。これらはどれも、読書感想文を書くときに発揮した力で、これからの時代ではこの「人間ならではの言葉の力（言語能力）」を伸ばすことが、大切である。

●食の課題追究「オリジナル給食料理」

課題追究と料理は結び付けて考えるのが難しいが、自由な発想で料理が考えられていた。また、給食でみんなが食べられるように配慮された料理もあった。

調べるとき、インターネットなどだけでなく実際に農家の人や家族に取材するとさらによい。

今年度は、7月から8月にかけて、全8講座を開催しました。初めは知らない者同士のこども達がだんだん打ち解け協力し合う様子をみると、それもまた、よい経験になったのでは、と思いました。受講した講座をきっかけに夏休みの作品作りに取り組んだ子がいたことに成果を感じました。



現代詩講座

- 7月11日(土) 科学作品 パワーアップ講座
- 7月11日(土) 社会科課題追究学習作品パワーアップ講座
- 8月 4日(火) 体力パワーアップ講座
- 8月 5日(水) 現代詩講座
- 8月 6日(木) イングリッシュキャンプ
- 8月 7日(金) プログラミング講座
- 8月 7日(金) ものづくり講座
- 8月 7日(金) 中部大学見学講座



イングリッシュキャンプ

あまり、しゃべったことがない、いろいろな国の人たちと話すことができたのでよかったです。ゲームなどをして、とても楽しかったです。はじめは緊張をしていたけど、だんだんと緊張せず楽しむことができました。

チームプレーが楽しかった。うまくいったら楽しいし、気持ちよかった。知らない子とも仲良くなれた。



体力パワーアップ講座



プログラミング講座

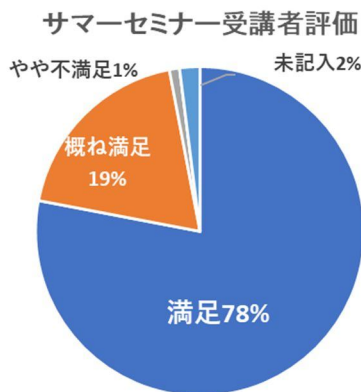
無線でマックイーンが動かせることが分かった。とても楽しかった。

(科学作品パワーアップ講座に参加した児童)
実験の内容が広がってよかった。先生の話聞いてやりたかったことが、いろいろ思いついたのでよかったです。先生の講座はとても楽しかったです。

(社会科課題追究学習パワーアップ講座に参加した保護者)

漠然としていた調べ方やまとめ方について見通しがもてました。初めて取り組むので、子ども自身が楽しいと思って終わられるようにしたいです。過去の作品を見せてもらえて、社会科の研究の進め方がよく理解できました。

今年度のサマーセミナーは全7講座 幼稚園・こども園・小中学校からのべ149名の参加がありました。どの講座も、今日的な課題を取り上げた内容だったこともあり、熱心に受講される姿が印象的でした。



受講者の感想より



こども園体験研修

●こども園の先生方から、指示の出し方、子どもの興味の引きつけ方など小学校や中学校でも活用していけることがたくさんあり、非常に充実した学びの時間でした。今後の子どもの関わり方に活かしていきたい。(こども園体験研修)



運動指導講座

●これまで、生成 AI は著作権の問題や個人情報漏洩等の関係で「少し怖いもの」というイメージがあり、ほとんど使ったことがありませんでした。しかし、今回の研修を受けて、「優秀だけど時々間違えるアシスタント」という理解のもとで使えば、業務の改善にもなり得る便利なものと認識が変わりました。しかし、AI の制作物の最終責任は自分だということを忘れず、利活用をしていきたいと感じました。(生成 AI 講座)



絵画指導研修

●普段何気なくやっていることが、実は著作権侵害につながっていたりと危険なこともあったりすることが改めて分かりました。原則と例外をきちんと理解していきたいです。また、自分だけでなく他の職員や子どもたちにも知らせていきたいです。(生成 AI に関する知的財産の研修)

●データの分析はとても重要だとよく言われるが、分析した結果をただ鵜呑みにするのではなく、データの背景などを踏まえて考えることが大切であることが分かった。ウェブラーニングについては、私はただ問題をやらせて終わりだったが色んなデータを使いながらもっと意味のある使い方をしていきたいと思った。(NEW!GIFU ウェブラーニングデータ利活用研修)



「言葉の力」

泉中学校 教頭 古川 浩行

「お前、バレー部か？」

高校在学時に、バレーボールの授業中に保健体育科の先生が私にかけた言葉です。

当時、私は野球部に所属していましたが、「バレー部と間違われるくらい、うまくやれているということか！」と大きな勘違いをしたことで、運動有能感が一気に高まったことを覚えています。

今思えば、自分自身とても幸せな性格だったと思います。しかし、このたった一つの言葉が自分を体育教師に導いたのだと思えます。

教師は人の未来を創る仕事です。教師の言葉がけ一つで子どもの人生が変わることがあることを実体験で学ぶことができました。

そう思いながらも、自分自身が子どもたちにどんな言葉がけをしてきたのかを振り返ってみると、反省することの方が多いのが現実です。子どもを傷付けてしまう言動もありました。

恥ずかしい限りです。逆に、自分の言葉で一体どれだけの子どもたちをよりよい方向に導けたのかと考えると・・・怖くなってきます。

とは言っても、「過去」と「他人」は変えられないので、「未来」と「自分」にフォーカスして突き進むしかありません。

今、私は泉中学校の教頭として勤務しています。現在泉中学校に通う生徒達、勤務する職員達は私の誇りです。

【愛語よく廻天の力あり】

価値付けたり方向付けたりする言葉がけをたくさんすることで、生徒達や職員の将来がよりよくなるよう日々努めていきたいものです。



掲 示 板

8月5日 中学校総合体育大会の東海大会に出場する中学生の激励会が開催されました。

今年度の出場種目は以下の通り、出場者は17名です。

陸上競技	棒高跳び (男子、女子)
	400m (男子共通)
	100m (男子3年)
	4×100mリレー (男子共通)
ソフトテニス	団体 (男子、女子)
卓球	個人 (女子)
体操	総合 (男子)
新体操	リボン (女子)
水泳競技	400m個人メドレー (男子)
	100mバタフライ (男子)

また、ソフトテニス (男子) 全国中学校体育大会に出場する中学生の教育長表敬訪問が8月18日にありました。

8月18日 中学校吹奏楽コンクール 東海大会に出場する中学生の激励会が開催されました。

今年度、泉中学校から20名が出場します。



「教育とき」は 土岐市HP・ロイロノート(土岐市のアカウントをお持ちの方)でもご覧になれます。